

# 令和5年度第2回千代田区消防団運営委員会

令和6年2月13日（火）

14時00分から

千代田区役所8階第1委員会室

## 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

.....(資料1)

4 定数報告

5 議 案

令和5年度特別区消防団運営委員会への諮問事項について

.....(資料2、3)

6 今後の審議日程

.....(資料4)

7 その他

8 閉 会

## 消防団運営委員会委員名簿

令和6年2月13日(火)

役	職名	氏名	根拠
委員長	千代田区長	樋口 高顕	* 1
委員	丸の内防火防災協会長	吉田 淳一	* 2
委員	麴町防火防災協会長	垣見 裕司	
委員	神田防火防災協会長	坂井 重正	
委員	神田防火防災協会女性の会会長	大山 恵子	* 3
委員	区議会議員	林 則行	
委員	区議会議員	白川 司	
委員	区議会議員	岩田 かずひと	
委員	区議会議員	えごし 雄一	* 4
委員	丸の内消防署長	河本 知幸	
委員	麴町消防署長	佐藤 睦	
委員	神田消防署長	岡部 卓海	* 5
委員	丸の内消防団長	千葉 太	
委員	麴町消防団長	平位 誠一	
委員	神田消防団長	小林 泰夫	

\* 1 特別区の消防団の設置等に関する条例（東京都条例）第7条第1項の委員長

\* 2 特別区の消防団の設置等に関する条例（東京都条例）第5条第1号の委員

\* 3 特別区の消防団の設置等に関する条例（東京都条例）第5条第2号の委員

\* 4 特別区の消防団の設置等に関する条例（東京都条例）第5条第3号の委員

\* 5 特別区の消防団の設置等に関する条例（東京都条例）第5条第4号の委員

なお、委員の任期については、特別区の消防団の設置等に関する条例（東京都条例）第6条による。

# 特別区消防団運営委員会への諮問について

## 1 諮問事項

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

## 2 審議期間

令和5年8月から令和7年3月まで（1年8か月）

〈審議回数：令和5年度2回、令和6年度2回 計4回〉

## 3 諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。

さらに、本年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。

## 課題 1

地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。

## 検討事項 1 - 1

入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況(構成等)を踏まえ検討する

## 検討の方向性 1 - 1 (例)

- ① 団活動によりやりがいを持てる方策の検討
  - ・ やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがあるかなどを検討
  - ・ 検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容を検討
- ② 資格取得講座の拡充等の検討
  - ・ 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等について検討
  - ・ 多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討
- ③ 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討  
各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘

## 検討事項 1 - 2

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

## 検討の方向性 1 - 2 (例)

- ① 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討
  - ・ M C A無線に代わる無線機への更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による利便性の向上
  - ・ 電話や緊急情報伝達システムに代わる出場指令手段の導入など
- ② 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討  
現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入など
- ③ 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討  
環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減

## 課題 2

活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

## 検討事項 1 - 1

消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。

## 検討の方向性 1 - 1 (例)

- ① 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討
  - ・ 具体的訓練目標や到達状況の確認の実施 (デジタル訓練日誌の導入や目標成果シートの作成)
  - ・ 団員の活動技術や実績に応じた識別方策の検討
- ② 経験豊富な団員 (中核となる団員) による訓練指導体制等の検討
  - ・ 長年の消防団活動で培った知識や技術を実戦的訓練指導への反映 (指導マニュアルの作成)
  - ・ 訓練指導者の研修や体制など制度の検討など
- ③ 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討
- ④ 訓練効果の確認方策について検討

## 検討事項 1 - 2

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

## 検討の方向性 1 - 1 (例)

- ① 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討
  - ・ 消防団員が災害活動に従事する意識向上のための方策について
  - ・ 区や関係団体と連携した、消防団活動の新たな認知度向上方策の検討
- ② 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討
  - ・ 地域行事や消防団行事などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解促進方策について
  - ・ 消防団員が行う総合防災教育等を通じた、将来を見据えた児童・生徒の消防団活動に対する理解促進方策について

## 諮問事項

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

### 課題 1

消防団として変化及び成長するには

#### 検討事項 1-1

#### 継続したいと思える組織の活性化方策

- (1) やりがいをもてる方策
  - ア 若い団員の交流(同じ団、他の団、女性団員)
  - イ 各世代でやりがいに違い
  
- (2) 資格取得講座、各種講習や教養講座など
  - ア 防災士や消防設備士等の資格取得、自衛消防技術認定などスキルアップ支援
  - イ 地域密着型の各種講習や教養講座の検討

※千代田区の地域特性とは

- ・政治・経済・文化の中心地、政府関連の施設・大使館が点在
- ・多くの企業本社や官公庁等のビジネスエリアが存在
- ・文化施設や歴史的な名所があり、観光地としても注目

#### 検討事項 1-2

#### 最新技術活用での活動環境の改善方策

- (1) 情報伝達のあり方(出場命令や、団員間の情報伝達)
  - ア LINEなどの既存のSNSの活用
  - イ 緊急情報伝達システムや電話に代わる出場指令手段検討
  
- (2) タブレット活用での消防団事務の効率化
  - ア カレンダーアプリなどでの消防団活動の予定管理や、出場団員の報告など
  - イ アプリを活用し、各種活動への参加状況を報告、進捗状況の把握
  
- (3) 各種資機材の更新に合わせた仕様変更
  - ア 各種資機材の軽量化
  - イ ドローンなどの最新技術の新規導入

## 課題2

### 地域住民の負託に応え続けるためには

#### 検討事項1-1

#### 計画的な人材育成方策

- (1) 経験が浅い団員への教育体制(目標、内容など)
  - ア 基本的な活動技術、安全管理についての初期トレーニングプログラムの導入
  - イ 定期的なシミュレーションと演習
- (2) 中核となる団員による指導体制
  - ア 経験豊富でリーダーシップのある団員から訓練指導者を選定
  - イ 訓練指導者の研修の充実
- (3) 操法訓練と実動訓練の実施の目安
  - ア 操法訓練は基本であり、実動訓練が応用・実践的な訓練であることの確認
  - イ 公園、学校等を借用しての実動訓練の実施
- (4) 訓練効果の確認方策
  - ア 実動訓練の評価、実施団員への推奨検討事項を共有することでの学びの深まり
  - イ VR技術などの疑似体験の活用

#### 検討事項1-2

#### 消防団を地域により知ってもらう方策

- (1) 積極的な災害活動を定着化させるには
  - ア 可搬ポンプ積載車で出場、水利部署、ホース延長という一連の流れの中での活動、安全管理を意識づける
  - イ 勤務先の消防団活動への理解促進
- (2) 地域行事・消防団行事を通じた地域住民の理解促進方策
  - ア 地域行事や防災訓練でのPR
  - イ 各町会での消防団員による防災講話など
- (3) 総合防災教育等を通じた、児童・生徒の理解促進方策
  - ア 学校の防災訓練に消防職員とともに、消防団員も出向する指導体制の構築
  - イ 消防団活動体験

## 千代田区消防団運営委員会スケジュール

(担当 神田消防署)

	開催日程等	実施内容
令和5年度 第2回	令和6年2月13日(火) 時間：14時00分から	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和5年度特別区消防団運営委員会への諮問概要について 「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」</li> <li>2 答申案の審議</li> <li>3 今後の審議予定等について</li> </ol>
令和6年度 第1回	令和6年7月中 会場及び時間未定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 答申案の審議</li> </ol>
令和6年度 第2回	令和7年2月中 会場及び時間未定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 千代田区消防団運営委員会答申(案)の策定</li> </ol>

※ 令和6年度第1回の開催日及び時間は事務局で調整し、後日お知らせいたします。

※ 千代田区消防団運営委員会の答申については、令和7年3月末までに東京消防庁防災部消防団課（事務局）に提出する予定です。